

古川なおき レポート

第119号



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊 2013年9月4日

世界保健機関

WHO「セーフコミュニティ」

横浜市長選挙も終わり、林市長が二期目の当選を果たしました。林市長には、横浜経済の活性化と思いやりのある行政サービスを展開していただきたいと期待しています。

この夏は参議院選挙、市長選挙、そして地域では盆踊りなどの夏祭り行事が多く行われました。9月は防災訓練、10月はレクリエーション大会や運動会と地域や学校でも行事が続きます。自治会町内会やPTAの役員の皆さん、各ボランティア団体の皆さんの献身的な地域活動に、あらためて感謝申し上げます。

○旭区の高齢化率は25%

地域活動の大切さは言うまでもありませんが、旭区は高齢化率が25%を超えていることから地域全体で高齢者を支えていかなければならないと日頃から感じているところです（2面参照）。小さな子どもからお年寄りまで誰もが安全に安心して暮らすことの出来る社会が理想です。私が小学校に通っていた頃は、コンビニエンスストアや携帯電話もない時代でしたが、子どもとお年寄りを中心に人と人が仲良く交流し、どこでも安心して過ごせていたように思います。「3丁目の夕日」に戻ることはできないかもしれませんが、今は今の時代に合った施策で安心して暮らすことのできる街を目指したいと思います。

○栄区での取り組み

横浜市栄区では、WHO（世界保健機関）協働センターが推進する「セーフコミュニティ」を来月認証取得します。「セーフコミュニティ」とは、事故やけがは、偶然の結果ではなく、予防できるという理念の下、地域住民と行政等が協働して「地域の誰もがいつまでも健康で安全で安心して暮らせるまち」の事です。WHOでは、「事故やけがは原因を究明することで予防できる」という理念のもと、地域ぐるみで、安全・安心なまちづくりのための活動を、継続的に行っているまちを「セーフコミュニティ」として認証しています（平成25年7月19日現在、世界で317都市、日本で6都市が認証取得済み）。認証にあたり、WHOでは、活動の定義やプログラム等について、7つの指針（2面参照）を

定めています。

少子高齢化の中で、防災対策、児童虐待や自殺などの問題、交通事故、オレオレ詐欺や空き巣、こうした課題に対しては、区役所だけでなく、自治会町内会をはじめ、警察署、消防署、各種団体や専門機関と連携を取り、区民全体で課題を共有し、取り組まなければなりません。セーフコミュニティの認証都市に加わることによって、住民と専門機関、行政などが知恵を出し合い、地域の課題を解決するためのより良いプログラムを創り上げる、それを国内外のネットワークの中で共有し、お互いの都市をより良い街に発展させることができます。

○京都府亀岡市の取り組み

先日、日本での「セーフコミュニティ」認証第一号の京都府亀岡市に行き、お話を伺って来ましたが、5年前の認証時と比較して、子どものケガ受傷率、街頭犯罪認知件数、交通事故発生件数、自殺者数などが減少し、効果が表れています。担当課長のお話で興味深かったのは、亀岡市の「セーフコミュニティ」の中心として活動している、自治会長さんが、タイで開催されたセーフコミュニティ認証都市の国際会議で亀岡市の取り組み事例を発表した時の話です。発表が終わると質問があり、あなたは市長かと聞かれたのでノーと答え、議長かと聞かれたのでノーと答えました。では、あなたの職業は？と聞かれたので「ボランティア」だと答えた時、会場にどよめきが起ったと言うのです。欧米をはじめ他の国では、ボランティアで地域のために活動する日本の自治会町内会の取り組みは珍しいようです。私たちが、あたりまえに思っている自治会町内会は世界の中でも日本が誇る素晴らしい団体なのです。少子高齢化社会では、地域でお互いに支え合うことが求められています。地域のために自分にできることを少しだけ行動することが大切な時代になっていると思います。

国連の機関であるWHOが各国の地域の安全・安心に視点をあてた「セーフコミュニティ」ですが、栄区をはじめ各認証地域で効果が上がることを期待したいと思います。

横浜市議員 古川 なおき

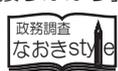
古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選（26才最年少）
現在 平成25年 水道・交通委員会副委員長
孤立を防ぐ地域づくり特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市FCキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 理事
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問

政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう



朝ウォーキング



日時：10月26日（土）10時～11時半

集合場所：こども自然公園（大池公園）正面入り口

★参加される方は、当日直接、集合場所にお集まりください。雨天中止です。

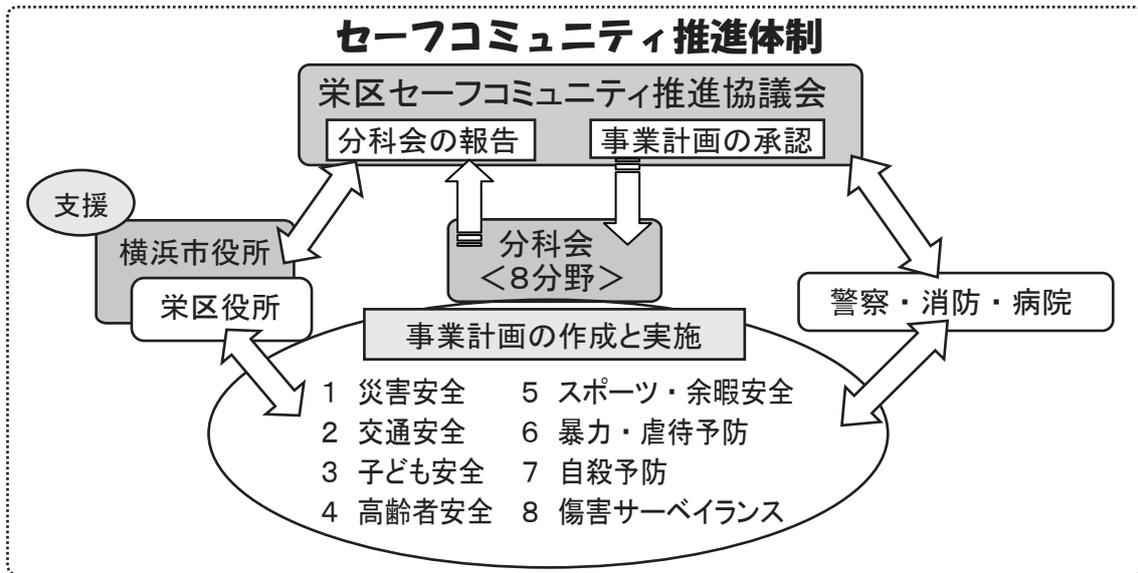
旭区・高齢者基礎データ

| 項目 | 旭区 | 横浜市 | 備考 |
|------------|------------------|------------|------------|
| ①人口 | 251,970人 | 3,704,046人 | |
| ②65歳以上人口 | 63,682人 | 790,000人 | |
| ③高齢化率 | 25.4% (18区中2位) | 21.3% | 1位栄区=26.3% |
| ④独居高齢者世帯 | 16,253人 | 215,368世帯 | 区内世帯の14.6% |
| ⑤要介護認定者数 | 10,816人 (18区中1位) | 134,130人 | |
| ⑥要介護認定申請件数 | 10,688件 (18区中1位) | 135,689人 | |
| ⑦認知症高齢者数 | 5,793人 (18区中1位) | 71,804人 | |

セーフコミュニティとは

セーフコミュニティとは、事故やけがは、偶然の結果ではなく、予防できるという理念の下、地域住民と行政等が協働して「地域の誰もがいつまでも健康で安全で安心して暮らせるまち」のことで、安全・安心なまちづくりのための活動を、地域と行政が協働で、継続的に行っている地域も含まれます。

栄区では、災害安全、交通安全、子どもの安全、高齢者の安全、スポーツ・余暇の安全、暴力・虐待予防、自殺予防、傷害サーベイランスという8つのテーマを柱に、活動を行っています。傷害サーベイランスとは、“致命的な事故やけがは、その原因を究明することで予防できる”という考えに基づき、既存のデータ活用や独自の調査を行い、それぞれの活動の効果を客観的に評価する仕組みで、セーフコミュニティでは特に重要視されています。



セーフコミュニティの認証を取得するためには

WHO(世界保健機関)協働センターが示す7つの指針に沿って、書類審査と現地審査が行われます。指針を満たしていると認められると、セーフコミュニティ国際ネットワークの一員となることができます。

《7つの指針》

- 【指標1】分野の垣根を越えた協働による推進組織がある
- 【指標2】すべての年齢、性別、環境、状況をカバーする長期的、継続的なプログラムがある
- 【指標3】ハイリスクグループと環境に着目し、弱者グループの安全性を高めるプログラムがある
- 【指標4】入手可能な「根拠」に基づいたプログラムがある
- 【指標5】外傷の頻度と原因を記録するプログラムがある
- 【指標6】プログラム、プロセス、実践の効果をアセスメントする評価基準がある
- 【指標7】国内および国際的なセーフコミュニティネットワークへ継続的に参加している

川井浄水場の愛称募集!

再整備をすすめている川井浄水場が、平成26年4月から浄水処理を開始します。セラミック製の膜ろ過施設の設置により、道志川系の清廉な水はさらに磨かれて、一層安全な水に生まれ変わります！これを記念して、施設の愛称を市民の皆様から募集します（横浜市水道局ホームページをご覧ください）

☆募集期間 平成25年9月4日～9月30日（必着）
 ☆応募方法 郵送、FAX、電子メールにて
 ☆応募先 郵送：〒231-0023 中区山下町23番地
 日土地山下町ビル12階
 FAX：045-663-8820
 メール：su-josui@city.yokohama.jp
 「横浜市水道局浄水課川井浄水場再整備事業担当」まで
 ☆記載事項 愛称とその愛称にした理由や思い、住所、氏名、電話番号をご記入下さい

皆様のご応募お待ちしております!



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000
 E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見を
お待ちしております!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1
 E-mail: jm@furukawa2002.com

